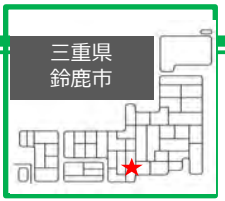
6 株式会社イシイナーセリー

視察受入れ：要相談　報道機関受入れ：要相談



障がい者の継続雇用と植木産地における就労拡大を目的として、造園や緑化工事に欠かせない植物「タマリュウ」を2011年に運営開始となった就労継続支援Ａ型事業所に年間を通じて、定植、除草作業などの農作業を委託している。

基本情報

- 所在地：三重県鈴鹿市
- 団体名：株式会社 イシイナーセリー
- 取組パターン：グループ内連携型
- 主力商品：タマリュウ（玉竜）
  ユリ科（キジカクシ科）

タマリュウ ひとすじ

取組の概要

○ 2011年に運営を開始した就労継続支援Ａ型事業では知的、精神、身体障害、ひきこもり等計１２名がタマリュウの定植、除草作業などの農作業に取り組んでいる。

○ 2011年に設立した特定非営利活動法人と当社で、定期的に作業に関する打ち合わせを行い、農業と福祉の立場から常に品質向上を目指している。

○ タマリュウの年間生産量はマット約９万枚、ポット約90万ポット。大量生産にはＡ型事業所との連携が不可欠であり、色や葉丈など均一かつ顧客ニーズに細かく対応。

広々とした農場で、丁寧に除草

サービスエリアに設置した花壇

作業ごとに札を立てて、作業を見える化

体制図

取組の成果

取組実績							
項目	単位	取組当初	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
利用者賃金	月額 円		83,269	92,634	96,600	98,895	10万円弱
利用者賃金	当初：平均時間額 ７７５円						

○ 賃金は、他の利用者へのフォローや出勤率など、**単なる枚数だけの評価にならない仕組み**で、自己肯定感を下げない工夫を行っている。

○ 作業の効率化と改善の取組を続けることで、生産性、品質が向上し、造園のプロから選ばれ続けている。

所在地▶三重県鈴鹿市住吉
ウェブサイト▶https：//www.best-tamaryu.com/

【取組のプロセス】

きっかけ　2000年頃に近隣の社会福祉法人から農作業を希望する方を紹介され、働く姿に可能性を感じたことがきっかけとなった。

2000年～

知的、精神、身体障害、引きこもりの方と農作業に取り組む

障がいのある人とともに地域と農業の明るい未来を創る

○ 2011年に障がい者の継続雇用と植木産地における就労拡大を目的とした特定非営利活動法人ベルプランツを設立し、同年に就労継続支援Ａ型事業所きららの開所となる。

○ 造園や緑化工事にかかせない植物であるタマリュウの定植、除草作業などの農作業をＡ型事業所きららに委託している。

聖火リレー出発点の
駒沢オリンピック公園の緑化

2011年～

労働環境、働きやすさの改善を進めるため、作業器具などにも工夫した。

特性、得意分野を活かした仕事の配置

○ 2015年個人事業から株式会社イシイナーセリーへ法人化。
経営方針は「最高品質のタマリュウ生産を通して、お客様に感動と笑顔を提供し、障がいのある人とともに地域と農業の明るい未来を創る。」

○ 能力や性格を把握して、チーム編成や能力に合わせた作業の割り当てを行い特性や日々の状態にあった作業を探ることで適材適所の配置を心掛けている。

日本パラ水泳選手権大会にて
市松模様を表現

2015年～

伊勢志摩サミット開催記念事業受託

駒沢オリンピック公園　球技場屋根緑化への納品

2018年～

県内外へ、障がいのある人も価値の高い造園施工を担えると、広く示すことができた。

高付加価値と働きがい

○ 作業の効率化・改善を重ね、造園のプロから選ばれる高品質な商品づくりにより2018年には県内月額平均賃金より約32%高い賃金を実現した。※前頁表参照

○ 駒沢オリンピック公園 総合運動場 新屋内球技場の屋根緑化への納品の他、サービスエリアでの花壇デザインから設置・管理・撤去にいたるまでを職員と利用者ともにおこない、通常の農作業では味わえない目に見える仕事ならではの面白さを感じられたことで、出勤率が向上した。

マットタイプを利用した造園施工の様子
トレーから外すだけで「緑のじゅうたん」が完成する。造園工費コスト削減だけでなく、障害の有無に関係なく作業ができるメリットもある。

今後の展望

障がいの有無に関係なく 新たな担い手とともに活躍できる産業

○ 植木農家と福祉事業者のマッチングで農福連携の輪を広げた。施設外就労の取組は現在も継続している。

○ 農業大学校の実習受け入れや引きこもりや生活困窮者へも門戸を広げ就労拡大を図り、農福連携の推進、地場産業の発展を目指していく。